

個人株主の皆さまにお届けする情報誌

NYK

plus

NYK プラス
vol.17 2015 Spring

【特集】 日本郵船創業130周年

長い歴史を土台に、
さらにその先へ

10年間の主な社会貢献活動

◆ 日本郵船ネイチャーフェローシップ



世界各地の海洋環境調査の場に大学生と社員を派遣(※)
(※) 2012年に派遣終了 ©古賀奏子

◆ 開発途上国への輸送支援



ランドセルを手にする
アフガニスタンの子ども
©ジョイセフ

子どもたちが心待ちにする
ラオスの移動図書館
©ジャンソン国際ボランティア会

◆ 災害支援活動



側溝を埋める
がれきを取り除く
社員ボランティア



「飛鳥II」
東北復興
応援クルーズ

社会貢献活動方針



基本理念

日本郵船は、地球社会とともに生きる「良き企業市民」として主体的に社会の課題に取り組み、その活動を通してすべてのステークホルダーにとっての企業価値の向上を目指します。

活動方針

1. 社員のボランティア活動の推進
2. 未来の地球社会への「投資」
3. 地域社会との共生



コーポレート・シティズンシップ・オフィスのメンバー

Corporate Citizenship 日本郵船の社会貢献活動

次の10年に向けて 新しい一歩を

コーポレート・シティズンシップ・オフィス設立10周年

当社の「コーポレート・シティズンシップ・オフィス」は社会貢献の専門部署として、今から10年前、創業120周年を機に設立されました。これまでに、当社の経営資源を生かし、開発途上国や台風や地震などの災害被災地への輸送支援を中心に、客船でのチャリティ・クルーズや、東日本大震災の復興支援活動などを行ってきました。

10周年を迎え、新たに「YUSEN ボランティア・ポイント」として、社員のボランティア活動に応じて、会社からNPOなどの団体へ寄付を行う制度を設け、初年度は教育や子どもへの支援の分野で活動する3団体を支援しました。また、社員有志による社会貢献活動のサポート組織を立ち上げ、次の10年に

向けた新しい社会貢献の取り組みを考えています。

当社はこれからも、社会とのつながりを大切に、企業市民として社会の課題に取り組んでいきます。

草創期

1885 (明治18) 年



郵便汽船三菱会社と共同運輸会社の合併により、日本郵船会社を設立（資本金1,100万円、所有汽船58隻）、10月創業

1870 (明治3) 年



三菱史料館提供

土佐藩が東京・大阪・高知間で海上物資輸送を行う九十九商会（後の三菱商会、郵便汽船三菱会社）設立、岩崎彌太郎が指揮監督

1945 (昭和20) 年



終戦時に所有船舶37隻、15万5,469総トンへ減少

長い歴史を土台に、さらにその先へ

日本郵船のルーツ

日本郵船の歴史は三菱グループの祖・岩崎彌太郎が1870年（明治3年）に海運事業を興したことにさかのぼります。三菱会社は当時、欧米の海運会社が独占していた内外定期船航路に進出し、熾烈な戦いの中で海運事業を発展させました。1885年（明治18年）に郵便汽船三菱会社と国内の競合相手だった共同運輸会社が合併し、10月1日に日本郵船会社が創業しました。その際に制定された白地に二本の赤いラインのファンネルマーク（船舶の煙突に描かれる海運会社ごとのマーク）、通称「二引（びき）」は、日本海運界を代表する二社が大合同したことを表すとともに、日本郵船の航路が地球を横断するという決意を表しています。

日本郵船は2015年10月に創業130周年を迎えます。二度の世界大戦や幾多の海運不況を乗り越え、世界有数の総合海運・物流グループへと発展しました。日本郵船のこれまでの歴史を振り返ります。

1996 (平成8) 年



カタールLNG輸送開始

北米、欧州コンテナ航路でグランドアライアンスによる新サービス開始

1997 (平成9) 年

東京湾でタンカー「ダイヤモンドグレース」原油流出事故(この事故を教訓に安全運航キャンペーン「Remember Naka-no-Se」(リメンバークンノ瀬)を毎年実施)

1998 (平成10) 年

昭和海運株式会社と合併、社船3隻、54万9,031重量トン、用船75隻、614万134重量トンを継承

独自の安全運航規格「NAV9000」を導入

1993 (平成5) 年



日本籍船初のダブルハル(二重船殻)タンカー「高峰丸」竣工

1995 (平成7) 年

阪神・淡路大震災による神戸港ターミナル被災

クルーズ船「クリスタル・シンフォニー」竣工

1991 (平成3) 年



クルーズ船「飛鳥」竣工

日本ライナーシステム株式会社と合併

1990 (平成2) 年

クルーズ船「クリスタル・ハーモニー」竣工、客船事業を再開

1983 (昭和58) 年

LNG輸送開始(インドネシア/日本)

拡大・成長期

1968 (昭和43) 年



北米西岸コンテナ(PSW)航路開設、日本初のフルコンテナ船「箱根丸」就航

1978 (昭和53) 年



日本貨物航空株式会社(NCA)設立

1964 (昭和39) 年

海運再建整備に関する臨時措置法に基づき三菱海運株式会社と合併、合併後の所有船舶153隻、228万7,696重量トン

1969 (昭和44) 年

近海船、内航船舶部門を近海郵船株式会社に委譲

合併の歴史

日本郵船が発足した後も、幾度かの合併を経験しました。1963年に成立した海運再建2法に基づき、1964年に日本の外航海運企業は6グループに集約され、その際に日本郵船は三菱海運株式会社と合併しました。東京船舶株式会社、共栄タンカー株式会社、八馬汽船株式会社、太平洋汽船株式会社などの人的・資本的関係の深かった海運会社が日本郵船を中核とするグループのメンバーになり、今日の日本郵船グループの基礎ができました。90年代には日本ライナーシステム株式会社、海運大手の一角の昭和海運株式会社と合併。合併には痛みも伴いましたが、海運産業の健全な発展に寄与するとともに、日本郵船は新しい血を加えながらさらに強くなっていきました。

総合海運・物流企業へ

世界貿易の拡大による海上荷動きの増大とエネルギー革命を背景に、1960年代からさまざまな種類の船舶が生まれます。製品輸送はコンテナ化され、バルクキャリアー、タンカー、LNG船、自動車船などの専用船が開発されました。日本郵船はさまざまな種類の船舶の運航を通じてあらゆる産業の発展に貢献してきました。コンテナ化による海陸一貫輸送が発達する中で港湾ターミナルの運営や陸上輸送など物流事業にも領域を広げ、航空貨物事業にも進出し、海・陸・空の全ての輸送モードを手掛ける総合物流企業へと発展を遂げました。2011年にはNYKグループがより一体となって戦略的事業拡大を目指すための象徴として「NYKグループ統一ロゴ」のデザインをリニューアルしました。

2012 (平成24) 年



次世代型自動車専用船 (7000 台積みポストバナマックス型) の建造決定

2014 (平成26) 年



世界初大型 LNG 燃料供給船建造と LNG 燃料販売事業へ参画決定

2015 (平成27) 年

米国客船子会社クリスタルクルーズ社を売却、客船事業を「飛鳥II」に集中

2010 (平成22) 年



邦船社初のチャトルタンカー事業進出

物流事業統合で郵船ロジスティクス株式会社発足

2011 (平成23) 年



「NYKグループ統一ロゴ」のデザインをリニューアル

東日本大震災被災地への復興支援、救援物資無償輸送

2013 (平成25) 年

ルイジアナ州 (米国) で推進するキャメロン LNG プロジェクトに向け、合併事業会社を設立し、天然ガス液化事業に参画

2009 (平成21) 年



未来のコンセプトシップ「NYK スーパーエコシップ2030」発表



Petróleo Brasileiro 社 (ブラジル) 向け大水深掘削船 (ドリルシップ) 事業に参画

2007 (平成19) 年



フィリピンで商船大学「NYK-TDG MARITIME ACADEMY」開校

2002 (平成14) 年



米国のターミナル会社 Ceres Terminals を買収

2005 (平成17) 年

日本貨物航空株式会社を連結子会社化

2006 (平成18) 年

クルーズ船「飛鳥II」(クリスタル・ハーモニーを改装) 就航

安全運航・環境保全の誓い

海運会社にとって最も大事なことは、船舶を安全に運航し、貨物を無事にお客様にお届けすることです。船舶事故は乗組員が危険に晒されるだけでなく、流出油などが環境汚染を引き起こします。当社は1997年の東京湾・中ノ瀬航路での大型タンカー油流出事故を教訓に、安全運航の重要性を再認識するキャンペーン「Remember Naka-no-Se」(リメンバー・中ノ瀬)を毎年実施しています。安全運航の要となる船員の教育・訓練に力を入れ、2007年にフィリピンに自営の商船大学を設立しました。環境保全では船舶からのCO₂などの排出削減に取り組み、その技術開発に力を入れています。当社が思い描く未来の船舶「NYKスーパーエコシップ2030」を2009年に発表しました。

海運業プラス・アルファを目指して

世界の海上荷動きは今後も増大していく見通しで、海運業は今後も成長産業と見なされます。一方で中国などの海運・造船産業の成長によって海運業界は大競争時代に突入り、従来型の海運業では差別化を図るのが難しくなっています。当社は2011年に発表した中期経営計画で「More Than Shipping」(モア・ザン・シッピング)を掲げ、2014年に発表した新中期経営計画でもそれを踏襲しました。その意味は「海運業プラス・アルファで差別化を図る」ことで、高度な技術を必要とするLNG船や海洋資源開発分野、自動車物流事業などを強化します。差別化の土台となるのは130年の歴史の中で蓄積してきた技術とノウハウですが、その歴史にあぐらをかくことなく、これからも挑戦し続けます。



浅間丸の竣工時に作られたビルダーズ・モデル

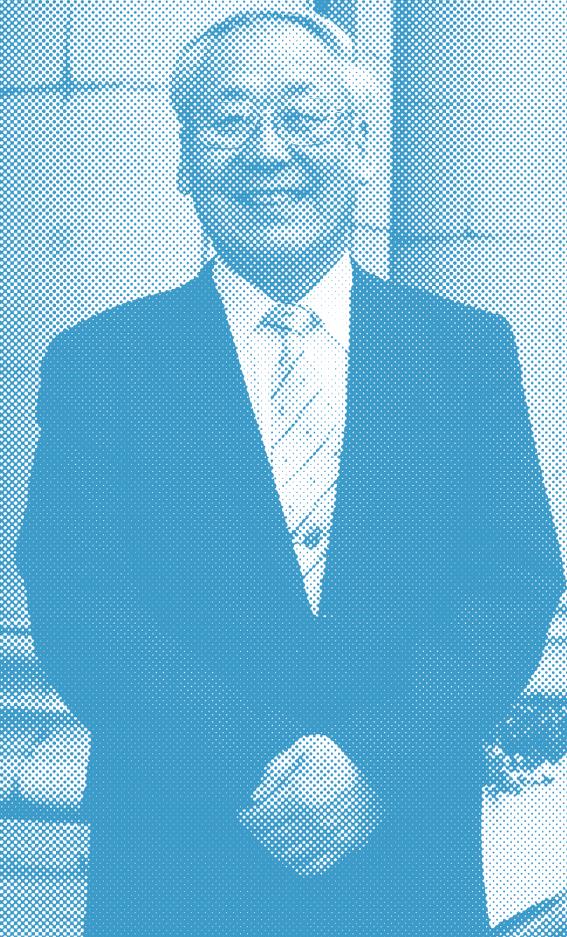


博物館の外観



多くの航海を共にした初代飛鳥

先人達の努力と決断を今に伝えたい



脇屋伯英さん

日本郵船株式会社
歴史博物館・氷川丸グループ
日本郵船歴史博物館 館長代理

港町・横浜の海岸通りに1936年に建てられた「横浜郵船ビル」。16本の大きな柱が印象的な建物の1階部分が日本郵船歴史博物館です。幾多の苦難を乗り越えて繁栄した当社の歴史が船の模型や、映像と共に紹介されています。

その館長代理を務める脇屋さんは、日本郵船に入社後、機関士として各種貨物船に乗船。海洋開発や客船事業の新規プロジェクトなどの陸上勤務を経験した後、飛鳥、飛鳥IIの機関長も務め、多くの船の安全な旅を守ってきました。「たくさんの船に乗り、大きな達成感と素晴らしい経験を得ることができました。退職した後も、その経験を生かし、こうして博物館で仕事ができることも幸せです。得られた経験を少しでも皆さ

んにお返ししたい」。

脇屋さんは来館者に積極的に声をかけ、さまざまな質問にも答えながら交流を深めます。「ご家族が郵船の船に乗っていたという方も多く来館されます。お名前や記録が残っている事もあり、そういったご家族の歴史を知ってお手伝いができること、喜んでもらえることがとても嬉しい」。ご家族の方から当時を知る貴重な資料を寄贈してもらうこともあり、それを保管・管理するのも重要な仕事です。

「若い人にも先人達の努力と決断を知ってほしい。温故知新のとても良い見本がたくさんありますので、ぜひお気軽にいらしてください。今年の7月中旬には日本郵船創業130周年を記念した企画展が開催されます」。

完全制御型の人工光植物工場が竣工

客船やフェリーでの食事は大きな楽しみのひとつ。長時間の航海中でも、新鮮な野菜を安心して召し上がっていただきたい——。日本郵船グループは農業ベンチャー企業と提携し、グリーンビジネスに積極的に取り組んでいます。

保存性が高い野菜を生産、客船やフェリーに利用

当社グループの郵船商事株式会社（本社：東京都港区）が福井県敦賀市で建設を進めていた植物工場が竣工し、3月31日に引き渡しを受けました。

この植物工場は、農業ベンチャーの株式会社みらい（本社：東京都中央区）と提携し、同社の生産技術を採用入れた完全制御型の人工光植物工場です。生産規模は1日1万株と国内最大級の規模となります。工場では常に気温、室温

が一定に保たれ、外因による影響がないため、安定した収穫数量が確保できると同時に、ビタミン、ミネラルが豊富で、美味しく高品質な野菜の生産が可能です。

主な生産品目はレタス、リーフレタス、フリルレタス、ロメインレタスの4種で、4月より播種、5月中旬に出荷を開始しました。今後は徐々に生産量を増やし、7月には1日1万株の100%生産に達す

ると見込んでいます。技術的にはハーブ類の生産も可能であり、需要に応じて将来的に生産品目を変更していきます。

クリーンで高品質な野菜を出荷するため、管理体制は万全を期しています。工場は元旦を除く年間364日稼働予定。従業員は入室の前に温水シャワーを浴びる、栽培室は外気との接触を極力削減した区画割にするなど、衛生管理を徹底しています。



植物工場の外観（福井県敦賀市）

植物工場で生産された野菜は、無農薬、高栄養価、また年間を通じ安定した品質で供給できると同時に、露地栽培されたものと比較して細菌数が少ないため、冷蔵庫で長期間品質維持ができます。

郵船商事（株）は長期保存が可能というメリットを生かし、客船やフェリーなどの船舶会社向けに営業活動を開始しました。また敦賀という立地条件を活用し、（株）みらいの販売協力のもと、関西以西マーケットへの販路拡大も予定してい



人工光を使用し、長期保存できる野菜を無農薬で生産する

ます。同社は、植物工場ビジネスを事業の1つの柱として、今後もグリーンビジネスを推進していきます。

● 2014年12月～2015年4月 ●

■ 大型LPG船の定期用船契約を締結

当社は、アストモスエネルギー株式会社(本社:東京都千代田区)と新造の大型LPガス外航船(Very Large Gas Carrier=VLGC)1隻の定期用船契約を締結しました。同船は三菱重工株式会社で2017年第2四半期に竣工予定で、共栄タンカー株式会社から用船し、アストモスエネルギー(株)との5年間の契約に投入されます。今回の契約で同社向けVLGCは11隻目となります。(2015年3月)

■ 米クリスタル・クルーズ社を売却

当社は、客船事業の見直しを目的として米国の客船事業子会社クリスタル・クルーズ(本社:ロサンゼルス市)をゲンティン香港に売却することを決定しました。譲渡価格は同社の企業価値5億5000万米ドルを基に算定。売却に伴い2016年3月期第1四半期に約261億円の特別利益を計上する予定です。クリスタル社の売却によって、当社の客船事業は日本市場を中心に“飛鳥II”を運航する郵船クルーズ株式会社(本社:横浜市)に集中して展開していきます。(2015年3月)

■ 船上のみで勤務する海上特定職を採用開始

当社は、日本人による海上特定職の採用開始を決定しました。海上特定職とは陸上勤務による転勤がなく、船上でのみ勤務ができ、乗船勤務以外の生活拠点を自由に選べるなど多様な働き方の選択肢を増やし、地方の再生・活性化にも貢献できる採用形態です。液化天然ガス(LNG)や海洋事業など高度な技術力を必要とする分野が伸びるなか、豊富な専門知識や経験を持った日本人船員を確保していきます。2016年入社から航海士、機関士の各数名を採用する計画です。(2015年3月)



■ 内藤忠顕代表取締役社長、就任挨拶

内藤忠顕新社長は4月1日の就任挨拶で「『堅実』な経営判断で長期安定のビジネスをしっかりと固めて、『積極果敢』に成長性の高い事業に挑戦する、この二面性こそが重要でありNYKグループの長い歴史の中でわれわれのDNAとして脈々と受け継がれています。NYKのあるべき成長戦略をもう一度考え直し、確実にMore Than Shipping 2018の目標を達成しようではありませんか」と述べました。(2015年4月)



■ インド北西部で完成車物流ターミナルを共同運営

当社グループ会社のNYK Auto Logistics India Pvt. Ltd (以下NALI社)は、インド北西部のグジャラート州ピパバブ港でGujarat Pipavav Port Ltdと共同で2015年6月からの完成車物流ターミナル運営開始を決定しました。NALI社はPDI(出荷前点検)や無線ICタグ(RFID)技術による車両追跡サービス、年間25万台もの取扱能力を有する完成車専用ヤードを整備し、高付加価値の完成車物流サービスを提供します。(2014年12月)

■ 北米港湾事業の株式を一部売却

当社は、北米における港湾事業子会社の株式の49%をインフラ投資ファンドのマッコーリー・インフラストラクチャー・パートナーズに売却することを決定しました。売却を通じてコンテナターミナル事業のポートフォリオを再構築し、新規投資による事業強化を進めていきます。(2014年12月)

■ メキシコ西岸-北米西岸-東アジア間の完成車輸送新サービス

当社は、自動車船の新サービスとしてメキシコ西岸から北米西岸、東アジアを結ぶTrans Pacific Express Service(TPX Service)を開始しました。新サービスの第1船目である自動車専用船"Viking Drive"は、1月28日にメキシコのアカプルコを出港、2月19日横浜に入港し、メキシコと北米で積載した完成車の荷揚げを行いました。本サービスにより、本格化するメキシコからの完成車輸出需要と輸入増加が見込まれる中国向けの自動車輸送に対応していきます。(2015年2月)



■ 東証「なでしこ銘柄」に2年連続で選定

当社は、東京証券取引所(東証)と経済産業省が共同で選定する2014年度「なでしこ銘柄」に昨年度に続いて、2年連続で選定されました。「なでしこ銘柄」は、東証一部上場企業の中から女性活躍推進に優れた企業が選ばれる銘柄です。当社は2001年に「総合職・一般職」の職種区分を廃止、2002年に企業内保育所を設置しました。また、女性管理職比率が約15%であることや2013年度から女性のキャリア形成促進を目的とした「キャリア業務室」を設置し、仕事と家庭の両立を支援するため、配偶者が転勤した際には最長3年間休業できる制度を導入するなど取り組みが評価され、今回の連続選定となりました。(2015年3月)





NYKのある街 ◆◆◆

Milan ミラノ イタリア



市内の中心に建つドゥオーモはミラノの象徴

イタリア北部最大の都市、ミラノ。「ミラノ・コレクション」で知られるように、服飾・繊維などファッション関連産業が活発な街です。

近年は航空機や自動車、精密機器なども重要産業として発達しており、イタリア最大級の経済地域を形成しています。今年は食をテーマにしたミラノ国際博覧会が10月まで開催中です。

この街には日本郵船グループ会社の「YUSEN LOGISTICS (ITALY) S.P.A」があり、高度化・多様化する国際物流ニーズに応える高品質なフォワーディングビジネスを展開しています。



YUSEN LOGISTICS (ITALY) S.P.A

海事用語 AtoZ

本誌の中でご紹介した記事の中から、わかりにくい専門用語を解説します。

【フルコンテナ船】〈ふるこんてなせん〉

▶5ページ

海上コンテナを積載・輸送するための構造を持った船舶をコンテナ船と呼ぶ。特にコンテナ輸送に特化した船をフルコンテナ船と呼び、一般的に「コンテナ船」と言えばフルコンテナ船を指すことが多い。これに対し、コンテナに加え、非コンテナ貨物も輸送可能な船舶は「セミコンテナ船」と呼ばれる。

【ダブルハルタンカー】〈だぶるはるとんかー〉

▶6ページ

旧式のシングルハル（一重船殻）のタンカーは積み荷の油と海を隔てるのが外板一枚のため、座礁事故などで外板が破れると油が流出する恐れがあった。ダブルハル（二重船殻）は外板を二重にし、その内側をバラスト水（海水）タンクとすることで損傷による油の流出を防ぐ。国際条約で、1996年以降引渡しのタンカーのダブルハル化が義務付けられた。

【ドリルシップ】〈どりるしっぷ〉

▶7ページ

巨大な掘削設備を搭載した特殊船。深海油田などを探査するための掘削作業に使われる。海の上から海底数千メートルまで真っすぐ掘り進めるため、洋上で波や風があっても船が同じ場所に留まり続けるよう、コンピュータによる位置制御装置が搭載されている。ちなみにドリルシップ1隻の価格は数百億円で、最も高価な船の1つだ。

【PDI】〈ぴーでいーあい〉

▶13ページ

自動車は輸出先の港湾に陸揚げされた後、ディーラーに搬送される前にその国の基準に基づく保安・品質検査が行われる。その業務を納車前検査（Pre-delivery Inspection＝PDI）と言う。自動車物流事業のPDIサービスには検査・点検だけでなく車体の補修や部品補給、各国に適したアクセサリーの取り付けなどが含まれる。

【RFID】〈あーるえふあいでいー〉

▶13ページ

微小な無線チップを内蔵した電子タグをモノや人に取り付けて無線通信でデータの読み書きを行うことで、タグの位置や動きをリアルタイムで識別・管理する。バーコードに代わる商品識別・管理技術として、自動車や電機産業など工場内物流の効率化に幅広く使われている。当社グループの(株)MTIは、RFIDの実用化に先進的に取り組んできた。

【フォワーディング】〈ふおわーでいんぐ〉

▶16ページ

船社・航空会社などの実運送者と荷主の間に立ち、貨物の利用運送・複合輸送を請け負う業態を指す。海上・航空の国際輸送のみならず、トラック・鉄道などの陸送事業も含まれる。1800年代、欧州域内で馬車などで貨物を「フォワード」（転送）する輸送業者を源流とし、現在でも欧州系が世界市場の大手を占める。

■小樽発 函館・横浜クルーズ

2015年9月7日(日) 小樽発～10日(日) 横浜着 旅行代金 156,000～786,000円

■A-styleクルーズ

2015年9月11日(日) 横浜発～13日(日) 横浜着 旅行代金 115,000～532,000円

■横浜発着 世界遺産 小笠原クルーズ

2015年9月13日(日) 横浜発～18日(日) 横浜着 旅行代金 310,000～1,375,000円

■秋の連休 駿河・紀州クルーズ

2015年9月18日(日) 横浜発～22日(日) 横浜着 旅行代金 232,000～1,070,000円

■秋の日本一周・韓国クルーズ

【Aコース】2015年9月22日(日) 横浜発～10月2日(日) 横浜着
旅行代金 468,000～2,358,000円

【Cコース】2015年9月23日(日) 神戸発～10月2日(日) 横浜着
旅行代金 422,000～2,123,000円

※この他に横浜～金沢、神戸～金沢などのコースもございます。詳しくはお問い合わせください。

■神戸発着 HULA ON ASUKA II

2015年10月10日(日) 神戸発～12日(日) 神戸着 旅行代金 115,000～530,000円

■神戸発横浜着 JAZZ ON ASUKA II

2015年10月12日(日) 神戸発～14日(日) 横浜着 旅行代金 115,000～530,000円

■博多発着 境港クルーズ

2015年11月3日(日) 博多発～5日(日) 博多着 旅行代金 104,000～524,000円

■名古屋発着 世界遺産 小笠原クルーズ

2015年11月7日(日) 名古屋発～12日(日) 名古屋着 旅行代金 310,000～1,375,000円

■ウィーンスタイルクルーズ

2015年11月16日(日) 横浜発～18日(日) 横浜着 旅行代金 112,000～527,000円

■ザ・グレン・ミラーオーケストラクルーズ

2015年11月18日(日) 横浜発～20日(日) 横浜着 旅行代金 118,000～538,000円

■秋の連休 紀州・伊勢クルーズ ～紅葉の紀伊半島を訪ねて～

2015年11月20日(日) 横浜発～23日(日) 横浜着 旅行代金 161,000～786,000円

■南西諸島・台湾クルーズ

【Aコース】2015年11月23日(日) 横浜発～12月5日(日) 横浜着
旅行代金 624,000～3,144,000円

【Dコース】2015年11月24日(日) 神戸発～12月4日(日) 神戸着
旅行代金 520,000～2,620,000円

※この他に横浜～那覇、神戸～那覇などのコースもございます。詳しくはお問い合わせください。

■南極・南米ワールドクルーズ 2015-2016

2015年12月10日(日) 横浜発～2016年3月18日(日) 横浜着
早期申込割引代金 4,304,400～23,256,000円
通常旅行代金 4,810,800～25,992,000円

- =フル得キャンペーン
 - =連続乗船プラン
 - =早期申込割引
 - =アスカクラブ特割25
- A・Cコースにご乗船の場合、お得な特別代金を設定
連続乗船の場合、お得な特別代金を設定
早めの旅行決定がお得な、早期申込割引代金を設定(※)
アスカクラブ会員の方は25%割引となります(※)
Kステートは対象外です

(※)の割引を適用の場合、株主優待割引はご利用いただけません。ご了承ください

お問い合わせ | 郵船クルーズ | 0570-666-154 FAX 045-640-5366
http://www.asukacruise.co.jp/

飛鳥クルーズ就航25周年の アニバーサリーイヤーへ



飛鳥II(撮影:中村庸夫)

2016年秋、飛鳥クルーズは就航25周年の節目を迎えます。このアニバーサリーイヤーを記念して、今年の夏以降、記念クルーズを実施します。8月20日発「長崎・釜山クルーズ」を皮切りに、11月23日発「南西諸島・台湾クルーズ」、12月10日発「南極・南米ワールドクルーズ」など一部コースでスペシャル・イベントを開催。クルーズ中、25周年を祝うアニバーサリーディナーをご用意いたします。飛鳥IIの記念すべき晚餐をご堪能ください。

そのほか、秋には「フラ」「ジャズ」「クラシック音楽」など、さまざまなテーマクルーズを二泊三日の日程をご用意いたしました。お得な代金が設定されている「連続乗船プラン」もございます。



NYKと 金魚のはなし

金魚が日本から米国に初めて輸出されたのは1878年。当時は、酒だるに入れて運ばれていました。後に浄水や温度管理ができる金魚専用タンクが開発され、1927年に最初のタンクを「さいべりや丸」に設置、輸送したことが記録に残っています。現在は、ランチュウなどの高級品種が東南アジアを中心に空輸されています。



日本郵船